会　議　記　録

次のとおり会議記録を公表します。

会 議 名	第１回瀬戸・高松広域連携中枢都市圏ビジョン懇談会
開催日時	令和元年８月２８日（水） １４時００分～１６時０５分
開催場所	高松市役所　３階　３２会議室
議　　題	(1) 瀬戸・高松広域連携中枢都市圏ビジョンの取組事業の評価等について(対象：平成３０年度実施事業) (2) 瀬戸・高松広域連携中枢都市圏ビジョンの取組拡充について (3) 圏域愛称について (4) その他
公開の区分	■　公開　　□　一部公開　　□　非公開
上記理由	
出席委員	嘉門会長、松岡副会長、石田（雄）委員、佐野委員、對馬委員、三井委員、宮本委員、栗委員、笠井委員、桑村委員、木村委員、竹内委員、粂委員、石田（良）委員、堀口委員、長尾委員
傍 聴 者	２ 人　　（定員　５　人）
報道機関	０ 人
担当課及び連絡先	政策課（839－2135）

会議経過及び会議結果
会議の概要は、次のとおり **議題（１）瀬戸・高松広域連携中枢都市圏ビジョンの取組事業の評価等について(対象：平成３０年度実施事業)** （会長） 「瀬戸・高松広域連携中枢都市圏ビジョンの取組事業の評価等について（対象：平成３０年度実施事業）」を、事務局から説明いただきたい。 **【別添資料１、２により、事務局から説明】** （委員） 読書推進ボランティア養成事業だが、さぬき市ではある程度活発にしている認識はあるが、これは圏域で連携している結果という認識でよいか。 （事務局） 高松市で企画・運営している講座への参加を募るものであり、講座の参加者１０２人のうち、広域からの参加者は１１人で、評価としては低くなっている。 （委員） さぬき市が単独で実施している講座の評価ではないということか。

会議経過及び会議結果
（事務局） この評価は、あくまで連携して実施している講座に限る。 （会長） 資料２（詳細版）で各市町の評価があるが、さぬき市だと「事業は行っていない」となっているものの、評価は「Ｂ」である。これはどう理解すればよいか。 （事務局） 評価は連携市町で行ったものであるが、事業が実施できていないものであっても、連携自体に意義があるという判断であれば、「Ｂ」となっているという認識である。 （会長） 連携する場合、費用負担はあるのか。 （事務局） この事業については、高松市が負担しているが、その他協議により各市町も費用を負担している事業はある。 （会長） この事業については、さぬき市は関与していないということか。 （事務局） 連携することとなっているが、実績がないということである。 （委員） 綾川町も実績がないが、どうすれば実績をあげられるのか。 （事務局） まず、事業自体が知られていないということが挙げられる。高松市からの情報提供の手法等について反省する点はあるが、事業ごとに分析を行ってまいりたい。 （会長） このビジョンは、連携事業について、お互いの役割分担を通じて事業の目的にコミットしていくという協働作業になる。委員のみなさんには、今後、これらの事業を実りあるものにするための意見を伺いたい。 （委員） 島しょ部の自治体の評価が低いことに対して、何か分析や、今後の対策は検討されているか。 （委員） 観光分野における連携事業についても、島しょ部の自治体の評価や取組姿勢が低いように見える。関西や関東を対象とした取組を進めていることは理解しているが、この圏域の連携事業として実りあるものにするために考えていることはあるか。

（会長）
自分の市町の評価に対して、納得する部分があるのか、または連携を活性化させるための提案など、各委員に、御意見いただきたい。高松市屋島競技場の活用などは、現地に行って利用する事業なので、連携が難しいのかもしれないが、生涯学習推進事業や、特別支援教育推進連携事業などは重要な取組であり、さらなる連携が必要だと思う。事業に対する評価は、連携市町が行っているということでよいか。

（事務局）
そのとおりである。評価やその理由も含め、連携市町の事業担当課が行っている。

（会長）
表現はまちまちであるが、「取組なし」や「実績なし」は同じ意味か。

（事務局）
そのとおりである。表現については、統一していないが、「行っていない」も含め、差はないと判断している。

（会長）
連携市町からの推薦委員は、評価について事前に各市町から説明をしているか。

（事務局）
高松市では把握していない。資料は、事前に送付した時点でお伝えしているという認識である。

（委員）
評価の一覧を見ると、さぬき市はＢ評価が多いので、連携できているかどうかは不明ながらも、ある程度できているのだろうと感じていた。住んでいる実感としてはおおむね相違はない。今後、職員とも話をしていきたいと思っている。

（委員）
東かがわ市は高松市と飛び地になっていることや、観光協会の廃止・新設があったため、観光分野では評価が低くなっているのではないかと考えている。今後、さぬき市とも密に情報共有などを行う必要があると感じている。また、表現の統一については、高松市より指示が必要ではないか。

（委員）
土庄町は離島であるため、海上交通が重要な要素を占めている。離島住民の立場としては、本来は高松市の道路とつながった取組となればいいという認識は高松市にもあると思っている。
評価が低いのは、連携中枢都市圏の担当課以外にこの構想が浸透していないのではないかと感じている。今後は、人材の育成などが課題ではないか。

（委員）
高松市が取りまとめる中で、評価の分析が必要だと思う。

（委員）
香川大学の学生が直島町に来ているが、大学等との連携事業なのか不明で

ある。住んでいる所感としては、評価が高くなるものもあると感じている。

（委員）
綾川町はほぼ「Ｂ」評価である。実感としても相違はない。読書推進ボランティア養成事業については、どこも連携できていないが、評価が各市町でばらばらである。
また、連携中枢都市圏というものについて、だれも知らないし、説明をしても理解されない。まずは、理解してもらうことが必要である。

（会長）
２０年後、３０年後には、全ての取組を単独の市町で行うことができなくなってくる。そういった中、各市町の長所をいかして連携することが非常に重要であり、圏域の住民の皆さんに理解してもらう必要がある。３年間の評価の推移を確認しながら、今後、どのように認識して、協働で進めていくか、委員さんと各市町の連絡を密にしていただきたい。

（委員）
観光分野になるが、最近の父母ヶ浜（三豊市）の人気など、地域間の競争は香川県内でも起きている。小豆島、東かがわでも、県の施策と連携していこうとしている。その中で、高松市との広域連携が二重行政になっている。取組事業数は多いが、二重行政にならないよう、高松市が主導して役割分担や連携したいことについて、検討することが必要だと感じる。

（事務局）
島しょ部とそれ以外の評価の違いなども、高松市として把握した。総括として記載しているが、特に県などとの役割分担を検証していくことや、より効果のある事業へのクローズアップ、事業の廃止など、各市町と協議の上、検討していきたい。

（委員）
男木島の島民は、４分の１が移住者となっており、豊島の移住者とバーベキューをしたりして、交流している。こういった事実上の連携はどこまでこの評価と連動するのか、気になっている。

（会長）
議題１は以上とする。

議題（２）瀬戸・高松広域連携中枢都市圏ビジョンの取組拡充について

（会長）
まず、若者会議からの報告について、松岡副会長から説明いただきたい。

【別添資料４により、松岡部会長から報告】

（会長）
若者会議の設置期間は今年度までとなっているが、その他、御意見等はないか。

（委員）
今回、若者会議に参集されたメンバーの専門分野は多岐にわたっていたが、特に今年度の対象である子育て世代について、専門家や実際に子育てをしているメンバーが少なかったことから、会議項目に応じた柔軟なメンバーの選定や、連携市町や出張先などから参加しやすいよう、Ｗｅｂを介した参加について、検討いただきたい。

（会長）
本日は、連携市町の政策担当部門の職員もお越しいただいている。委員の皆さんの議論の参考に、各市町の現状と課題、今後の連携について御発言いただきたい。

（さぬき市）
課題については、中長期的な人口減少である。本市の人口動態は、推計で２０４０年には、２０１５年に比べ３割を超える割合で減少し、高齢者人口が生産年齢人口を上回るとされている。また、近年の傾向では、若年層を中心に人口が減少傾向である。これらの対策として、例えば結婚、出産、子育て支援、安全安心、生きがいづくり支援などが必要だと考えており、次年度からの次期総合戦略にも反映していきたい。
今後の連携については、高松市への通勤・通学者が多いことから、行政区域を越えた連携を強化し、市民満足度を高めていきたい。特に、連携の効果が高い取組や、公共施設の有効活用などの視点を重視しながら、ビジョンに掲載されている事業を実効的なものにするため、可能なものについて協議を進めてまいりたい。

（会長）
ぜひ、さぬき市の委員さんとも議論いただきたい。

（東かがわ市）
課題については、さぬき市と同じく、人口減少、年齢構成の変化である。本市も次期総合戦略の策定年であり、基本的な方針は変わりない。１点目は、高校卒業後の若年層の人口流出、地元企業への就職対策である。地元企業では労働力が不足しており、近隣市町にも募集を呼びかけていると聞いている。２点目に、就職後、結婚後の転出対策である。本市独自の傾向であるが、特に仕事のしやすい高松市との公共交通の構築などについて考えている。その他、交流人口の増加については、観光の推進などを含め検討してまいりたい。また、住民の気持ちの持ち方も重要である。

教育、地域コミュニティ活動といったものについても、連携は必要と考えており、事業を寄せ集めたビジョンにならないよう、実りあるものにしてまいりたい。
そのためにも、積極的な協議が必要であり、若者会議の職員版のようなものも考えられる。また、圏域でのふるさと納税も考えてみてはどうか。その他、圏域内の施設の特長をいかした共同利用なども検討してまいりたい。

（土庄町）
現状として、人口減少に伴う病院、高校、小学校、町中心部のこども園統合など、まちづくりの基盤となる公共施設の統廃合が進んでおり、遊休施設の有効活用が課題である。また、空き家、耕作放棄地、公共交通の維持、税収の減少による行政サービス水準の低下の懸念など全国的な課題が同様に顕在化している。
連携については、離島という特性を踏まえて、医療・介護人材育成や、公共交通、観光施策を含む対流促進を目的とした事業を進めてまいりたい。

（小豆島町）
本町の現状として、２０４０年には人口が１万人を下回るという推計であり、地場産業（醤油、佃煮、そうめん、オリーブ）を中心とした労働力の確保が最も重要な課題である。今後、外国人労働者の確保、ＡＩや自動化による生産力向上などの視点も必要だと考えている。また、小豆島町では移住・定住施策を展開しているが、日本全体が人口減少している中、市町村間の人口の取り合いをしても仕方がないと考えている。
そういった中で、例えば、外国人労働者が生活する環境づくりなどは、小豆島町単独では限界があるので、圏域で取り組むことができればと思っている。また、船の航路の自動運転化などの取組についても、広域で連携できればと考えている。

（三木町）
三木町は、６４事業で連携することとしているが、市町の関係性を崩さない程度のゆるやかな連携にとどまっている点が課題である。今年度、公共交通網形成計画を策定することとしており、基礎調査や情報共有について、高松市と連携予定である。
そういった中で、何が連携できて、何が連携できないかを整理することが必要であると考えている。特に、連携強化に対する連携市町への財政措置があることから、財政措置状況と事業の効果を見える化することは必要だと考えている。

（直島町）
直島町では、人口ビジョンにおいて、２０６０年に１，５００人まで人口が減少するという推計に対し、これを総合戦略で現在の人口と同等の３，０００人を目標として、個別の施策として宅地造成や観光集客資源の創出・整備に取り組んでいる。これらの事業の連携の可能性についても、検討してまいりたいと考えている。

（綾川町）
綾川町は、総合戦略における施策の効果もあって、人口については概ね計画どおり推移しており、計画期間中の社会増減は毎年プラスとなっているが、２０４０年ごろの超高齢化社会を見据えた福祉、公共交通分野が非常に

重要になってくると考えている。福祉については、既に、介護認定審査会業務などは高松市に事務委託しており、今後も連携協力が必要な分野だと考えている。公共交通についても、将来的には１つの自治体だけでなく、広域で考えていく必要があると考えており、特に、高松空港を基幹とした海外誘客促進事業等は、関係人口増加のためにも連携して
まいりたいと考えている。

（会長）
各市町の行政側からの現状や今後の連携についての説明は、今回が初めてである。また、本日は、県の自治振興課にもお越しいただいている。県全体、瀬戸内など様々な枠組みでの連携について、県としての意見等あれば御発言いただきたい。

（香川県）
今後、行政資源が先細りする中で、基礎自治体同士の連携、県と市町との連携など、様々な枠組みでの議論があると思っており、県としても自治体連携の全体像の把握のためにも、懇談会にお声掛けいただき感謝したい。
県内では、丸亀市が２市３町で瀬戸内中讃定住自立圏を形成している。この地域は、従来より中讃広域行政事務組合を設立し、事務の共同化を進めており、効果のある取組として輪番制の救急医療体制の維持や、観光プロモーション、圏域内図書館利用の広域化などがあげられるとのことであった。また、中心市からの提案に対し、周辺市町が積極的でないという点が課題であるとのことであった。今後、懇談会への県のオブザーバーとしての参加といった取組も、丸亀市に伝えていき、都市圏間の情報共有にもつなげられればと思っている。また、資料１の総括でも、県との事業の調整が必要との記載があるが、水道企業団などの取組を通じて、県と市町の連携を柔軟に進めていくことが重要だと知事も強く思っている。本会の内容についても、上司に伝えてまいりたい。

（会長）
本日の県や各市町の説明を踏まえ、御意見、御質問などあれば御発言いただきたい。先ほど、Ｗｅｂ会議などの検討について御意見があったが、高松市ではそういった機能は、現在あるのか。

（事務局）
現時点ではその機能はない。

（会長）
Ｗｅｂ会議では発言しにくいということもあるかもしれないが、今ではスマートフォンからＳｋｙｐｅに参加するサービスなどもあるようなので、市としても便利な機能であり、連携という側面では非常に効果的だと思うので、ぜひ検討いただきたい。

（事務局）
検討していく。

（委員）
若者会議からの報告を受けて、私は、若者世代は、考えもつかなかった提案をしてくれることが期待できると思った。高齢者世代との意見交換も含め、ぜひ若者世代の懇談会への参画について、検討いただきたい。

（会長）
資料５は、委員の皆様からの意見に対する対応であるので、こちらも参考いただきたい。

議題（３）圏域愛称について

【別添資料６により、事務局から説明するとともに、１人５案まで選定】

（会長）
皆様から選定いただいたものを集計した結果である。

【選定結果】
１２票　瀬戸のまちネットワーク
９票　せとうちパートナーシップ圏
６票　きらり　瀬戸・高松広域連携都市圏
せと八団（せとハチ）
ＳＡＮＵＫＩぐるりと
瀬戸・高松広域連携ネットワーク
５票　瀬戸・高松“みらい”連携都市圏
瀬戸うららかシティ
さぬきすと
４票　瀬戸・高松クリエイティブ都市圏
３票　瀬戸内シティ
瀬戸創造拠点都市圏
１票　瀬戸・高松広域活性化圏

（会長）
推進委員会に提案する案を５～１０案に絞るということで、御意見を伺いたい。

（委員）
瀬戸内は、世界的にも注目されているが、瀬戸内という範囲は、この圏域の範囲を超えているのではないか。私は、この中では「さぬきすと」がいいと思っている。提案の中に残していただきたい。

（会長）
広域連携中枢都市圏や都市圏という言葉は不要ではないか。

（委員）
一番票の多い「瀬戸のまちネットワーク」だが、中国地方を含む同じ瀬戸内に「港町ネットワーク・瀬戸内」というものがある。

（会長）
原案は誰がつくったものか。懇談会での修正案の提案などは差し支えないか。

（事務局）
各市町の新規採用職員を中心に発案したものである。懇談会での修正案の提案は差し支えない。

（会長）
「瀬戸のまちネットワーク」は、「瀬戸・たかまつネットワーク」という形に、また、「せとうちパートナーシップ」も範囲が大きいため、「瀬戸・たかまつパートナーシップ」に修正の上、提案してよいか。その他、同様の修正の上、重複を除く６案の提案でよろしいか。

【圏域愛称（案）】
瀬戸・たかまつネットワーク
瀬戸・たかまつパートナーシップ
きらり　瀬戸・たかまつ
せと八団（せとハチ）
ＳＡＮＵＫＩぐるりと
さぬきすと

（委員）
異議なし。

（会長）
ビジョン懇談会からは６案の提案とする。推進委員会で決定した際には、委員の皆様にお伝えすることとしている。

議題（４）その他

【事務局より、今年度のスケジュールについて説明（資料なし）】

（会長）
全体と通じて、今後の予定を含め御意見あれば。

（委員）
特になし。

（会長）
それでは、長時間となったが、以上で懇談会を終了する。